



志津城物語

The Story of Shizu Castle [Shizu Jiro and Mononoke]

志津次郎と もののがれ

登場人物と
ゆかりの地

Introduction to the Characters and Related Locations

しづじろうたねうじ

志津次郎胤氏 Shizu Jiro Taneiji

胤氏は鎌倉時代の武将でこの時代に地域を治めた臼井氏当主、臼井太郎祐胤の弟にあたります。祐胤が25歳という若さで没すると、遺児である竹若丸を胤氏が後見し、支えることになりましたが、胤氏は竹若丸の暗殺を画策。この企てに気づいた竹若丸の乳母であった阿辰と臼井一族の岩戸五郎胤安は竹若丸を連れて臼井城を脱出し、鎌倉建長寺の仏国国師（高峰顕日）にその身柄を預けたと伝わります。竹若丸が鎌倉へ脱出したことにより、胤氏が臼井一族の実権を握りました。



もののけ ニコ Mononoke Niko

ものだけニコは、志津地域に古くから暮らすニホンリスが変化した妖怪です。人を笑わせることが大好きで自分の喜びの感情を妖力に変えてあらゆる対象に使うことができます。その行為は対象を笑わせるためにはあらゆる犠牲もいとわないことから笑わせようと

するがあまり、逆に悲しませてしまうことも。普段は大きな耳を頭巾でかくし、手に持った桜の木の枝の先にニコニコ玉をつくって妖力を蓄えているかわいいらしいものだけです。



うすいたろうすけたれ

臼井太郎祐胤 Usui Taro Suketane

臼井家は、千葉介常兼の三男常康を祖とし、2代常忠と、その子康胤が千葉一統と共に頼朝公の旗揚げに加わり、臼井の豪族としての地位を固めます。父は臼井六郎昌胤。通称は太郎。臼井家惣領となり、弟の次郎胤氏を志津郷に派遣して守らせたといいます。また、一族の岩戸五郎胤安（岩戸城主）、師戸四郎（師戸城主）、用草三郎（用草城主）にはそれぞれ臼井庄内の要害を固めさせたと伝わりました。

正和3(1314)年、病のために弟の志津胤氏に嫡男・竹若丸の後見を命じ、二十五歳の若さで没した伝わっています。



AR フォトスポットに設置の
2次元コードにスマホをか
ARによる志津次郎やも
いっしょに写真がとれます



うすいおきたね

臼井興胤 Usui Okitan

臼井興胤は臼井城主、南北朝時代の武将です。下総臼井城主臼井祐胤の子。父の死後、叔父の志津郎胤氏の策略により命を狙われますが、乳母の阿尼岩戸五郎の助けにより鎌倉建長寺で成長しました。成して足利尊氏にしたがうと戦功をあげ暦元年(1336)臼井城を本領と認められたと伝わっています。その弟志津次郎胤氏をほろぼし、臼井家の中興を担いました。幼名は竹若丸。初名は行胤と伝わっています。



おたつ

阿辰（お多津） Otatsu

阿辰は、臼井祐胤の子・竹若丸の乳母と伝わります。鎌倉時代の末期、臼井城の主だった臼井祐胤(臼井太郎祐胤)は、25歳の若さで死去しますが、遺児・竹若丸(3歳)の後見を、弟で志津城主の志津次郎胤氏に依頼しました。しかし、胤氏は下総・臼井城を我がものにするため竹若丸を殺害する策を準備します。これに気づいた阿辰(お多津)は、岩戸城の岩戸五郎胤安の助けを受け、竹若丸を鎌倉・建長寺へ逃しました。やがて閔与を知った志津次郎に追われ印旛沼の芦原に潜んでいた阿辰は、不意に咳が出てしまい、発見されて殺されたと伝わります。

いわとごろうたねやす

岩戸五郎胤安 Iwato Goro Taneyasu

岩戸五郎胤安は鎌倉時代の武将で千葉氏の一族であり臼井氏の重臣です。下総印旛郡の岩戸城主を務め、主君の臼井城主臼井祐胤が死去の後、跡継ぎの竹若丸（のちの興胤）が祐胤の弟、志津次郎胤氏によって殺されそうになったのを助け、鎌倉の建長寺に託しました。その後、胤安は志津次郎胤氏に攻められ戦死したと伝わります。

岩戸城跡とされる西福寺には岩戸五郎胤安の碑があり、臼井家を救った立役者として地域に讃えられています。



志津次郎と もののけ

史跡案内

Historical Site Guide



志津城跡 天御中主神社

Shizu Castle Ruins, Amenomi Nakanushi Shrine

志津駅南ロータリーから続く商店会の奥、閑静な住宅地の中に広がる竹林、巨木に囲まれた場所に社殿があります。雷か戦火が原因なのかわからない大き口を開けた洞を持つ大木や社殿の彫刻、石碑等に歴史を感じさせる志津城物語の舞台地。



千葉氏の氏神である妙見神社が神仏分離令で天御中主神社と改名されました。志津城の跡地に建てられたと伝わります。志津城は臼井城の支城の一つで、千葉一族である志津次郎胤氏の居城とされこの神社の境域とその周辺が鎌倉、室町期の志津城跡と言われています。



上峰城跡

Kamitoge Castle Ruins

上峰城は、臼井氏（千葉氏一族）の防衛網の一角を担ったとされる支城・出城。印旛郡誌（大正2年）には「上峰ノ地ハ古、臼井氏ノ出城アリソニシテ、志津城ト連絡スル要地ナリト云フ」とあり、上峰城は志津城を補完する、防衛・通信拠点と考えられています。

大口館跡 報恩寺周辺

Ouguchi Yakata Ruins

千葉県佐倉市下志津の報恩寺周辺に伝わる中世の城館跡（館跡）で、志津城や志津次郎館と同一視されることが多い史跡です。報恩寺境内には、古い供養塔があり、その時代に想いを馳せるのも感慨深いものです。

臼井城跡

Usui Castle Ruins

臼井城（うすいじょう）は、現在の千葉県佐倉市臼井田地域にあった城郭で佐倉市指定史跡です。平常兼の子の常康が臼井に居を築き臼井六郎を称したことから、その居館がこの臼井城であったとされています。臼井氏の中興の祖といわれる臼井興胤（14世紀中頃）が本領である臼井に復帰し、臼井城に居城したと伝わっています。



原氏が城主となった室町時代以降の戦乱の時代において後期千葉氏の拠る本佐倉城と共に重要な役割を果たしました。天正18年（1590）、北条氏の滅亡とともに原氏は命運を共にし、新たに徳川家康の臣下である酒井家次が城主となりました。その後、慶長9年（1604）に酒井氏が転封になると臼井城は廃城となりました。



志津駅南口商店会

SINCE 1976-2020

佐倉市ウェブサイト
<https://www.city.sakura.lg.jp/>



志津駅南口商店会ウェブサイト
<https://suzu-minami.jimdo.com/>



円応寺（圓應寺）

Enno-ji Temple

瑞湖山圓應寺は、釈迦牟尼仏を本尊とする臨済宗妙心寺派の寺院です。圓應寺所蔵の「圓應寺草創記」によれば暦応元年（1338）に臼井氏中興の祖である臼井興胤（うすいおきたね）により創建されたといいます。開山は竹若丸（後の興胤）を養育した鎌倉長寺の仏国國師とならび、影で臼井氏の再興を支えた仏真禪師で、師の恩に報いたものです。以来、臼井氏の菩提寺として崇敬されてきました。

寺領は広く風光明媚で知られ、臼井城跡とともに「城嶺夕照」として臼井八景の一つに数えられました。

酒井氏が臼井に居城のとき城とともに焼失したものを後に再建したものです。



阿辰の墓

Otatsu Grave

竹若丸（後の興胤）を逃した阿辰は志津次郎の怒りにふれ、城を出ます。その後、印旛沼の芦原で咳込み、追手に見つかり死に至った後、村人が阿辰を讃え石の祠を建てて、供養したのが、阿辰の墓です。

現代においても「おたつ（お多津）様」として地域に愛され、麦ごがしとお茶を供えて、お願いすると咳（せき）が治ると伝わり「咳神」としても知られています。

近年志津次郎の禊（みそぎ）菓子としての麦こうせんが販売され志津の有志が墓参におとずれています。



岩戸城跡

Iwato Castle Ruins

岩戸城は鎌倉時代末期に千葉氏一族の臼井氏に仕えた、岩戸五郎胤安の居城として知られています。志津城、師戸城と並ぶ臼井氏の三大支城のひとつでした。胤安は臼井氏の家督相続争いに巻き込まれ、竹若丸を救ったのち一族の志津次郎胤氏に攻められ討死しました。その後も臼井城の支城として利用されたと考えられています。現在城址は宅地化されていますが、西福寺がある場所が本丸跡と推測され、周辺に土塁や掘跡を確認することができます。



上志津 探訪マップ

志津城下町の姿を歴史から感じる

1 Spot 八幡神社 Hachimangu Shrine



はちまんじんじゃ

八幡神社

Hachimangu Shrine

創建は寛永3年(1626)と伝えられ、本殿の側面にほどこされた彫刻は、大きな見どころのひとつ。きれいにはき清められた境内は、常緑広葉樹林の閑静な貯いを残し、「上志津の社」として地域の

2 Spot 南志津公園 Minami Shizu Park



みなみしづこうえん

南志津公園

Minami Shizu Park

上志津の社のとなりにある多目的な芝生公園。緑豊かで80種類もの植物をめることができます。周囲を遊歩道により散歩ができますが、調整池としての役割を持ち、大雨のときなどは利用できません。ここには上志津川の水源があるとされています。

3 Spot 鶩宮神社 Washinomiya Shrine



わしのみやじんじゃ

鶩宮神社

Washinomiya Shrine

八幡神社表参道の登口にある小さな社で、天日鶩神(あめのひわしのかみ)を祭神としています。創建は不明ですが、地域の方がよくお参りをする姿を目にします。

4 Spot 西福寺と石仏群 Saifukuji Temple



さいふくじ

西福寺

Saifukuji Temple

せきぶつぐん

石仏群

Stone Buddha Group

阿弥陀如来を本尊とし、三百数十年前、井野の千手院の隠居寺として建てられました。境内左手の塚には出羽三山参拝記念供養塔がたくさん建てられていて、出羽三山信仰が盛んな土地柄だったことがわかります。上志津からの参拝者が泊まった宿坊の記録には元禄の時代から187名のお名前が記されています。

5 Spot 小沢家のケヤキ Ozawa Family's Zelkova Tree



おざわけ

小沢家のケヤキ

Ozawa Family's Zelkova Tree

西福寺の隣の小沢家にある大きなケヤキです。樹齢約300年、志津で最も大きい木といわれています。幹周りは約5.65メートル。小沢家と地域のみなさんに大切にされ今もこの地域を見守るかのようにそびえています。

●引用・資料：歩いてみよう“志津史跡・いまむかし”宮武考吉氏著（大空社出版）

シェアサイクルステーションについて HELLO CYCLING の Web サイト (QR コード) よりご確認ください。



志津駅南口 商店会

Shizu Station South Exit Shopping District



志津駅

Shizu Station



志津駅南口商店会
SHIZU MINA SINCE 1976 & 2020

11 SOPT 志津駅 & 志津駅南口商店会

志津駅の南口にのびる商店街は
“シヅミナ”的愛称で親しまれている商店会。
“笑顔の入口”をモットーに、みなさんをおもてなししています。



ホームページ QR コード



各種 SNS で情報発信しています「志津駅南口商店会」で検索▶

10 Spot 上志津新田の石仏群 Stone Buddha Statues of Kamishizu Shinden



かみしじんでん
せきぶつぐん
上志津新田の石仏群
Stone Buddha Statues of Kamishizu Shinden

石仏を祀るために一画が確
保されています。庚申塔、
二十三夜塔や馬頭観音など
が祀られています。刻まれた
文字を読んでみると歴史
散策の楽しみのひとつです。

9 Spot 中村家長屋門 Nagaya Gate of the Nakamura Family



なかむらけ ながやもん
中村家長屋門
Nagaya Gate of the Nakamura Family

江戸時代長屋門は身分によって厳し
く制限され、武士、名主などに限り
許されていました。中村家は佐倉藩
堀田家の配下に属し、道場を開いていたといいます。保存状態もよく
貴重な文化財のひとつです。

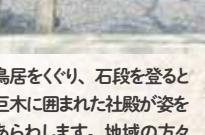
8 Spot 天御中主神社と志津城跡地 Shizu Castle Ruins and Amenominakanushi Shrine



あめのみなかめじんじゃ しじょうあと
天御中主神社と志津城跡
Shizu Castle Ruins and Amenominakanushi Shrine



7 Spot 稲荷神社 Inari Shrine



いなりじんじゃ
稲荷神社
Inari Shrine

鳥居をくぐり、石段を登ると
巨木に囲まれた社殿が姿を
あらわします。地域の方々
に「妙見さま」と呼ばれ親し
まれており、この神社とそ
の周辺が志津城跡といわれ
ています。近年、この地から
大きな骨董(かめ棺)が
遺物の入った状態で発見さ
れ、志津次郎龍氏のもので
は?と話題になりました。佐
倉市教育委員会で復元され
保管されています。歴史浪
漫をかきたてられますね。

6 Spot いやしの里山・清水台 Shimizudai



さとやま しみずだい
いやしの里山・清水台
Shimizudai

標石が
沼に注
水のか
私有地
裾から
が、見
せん。

あるこの里山には印旛
ぐ水源のひとつで湧き
ん養護となっています。
となっている敷地の山
清水が湧き出ています
学は残念ながらでき
ません。

7 Spot 稲荷神社 Inari Shrine



いなりじんじゃ
稲荷神社
Inari Shrine

ここは、私有地に
建てられた神社で
す。石造りの神使
である狐が迎えら
れている。巻物をく
わえた像もあり話題
に!?その意味は、
知恵の象徴といわ
れています。